

「ヤマガラ営巣開始！」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

先日設置した「巣箱口開閉装置・カメラ付き」の巣箱に、4月8日にはじめて小鳥が入った。



野鳥用の巣箱には、最初何も入れないほうが良い。わらや枯れ草を入れる人もいるが、これは野鳥にとってはむしろ迷惑なものである。今までの経験からも、何も敷いていない巣箱つまり木の床のままの巣箱が、一番営巣率が良い。



カラ類は、本来自然の樹木の穴(樹洞)に営巣する。しかし、都会でも山間部でも慢性的な「住宅難」なので、巣箱への営巣率はほぼ 100%である。人工的な巣箱の場合、シジュウカラが営巣することが一番多いが、時にはコガラ、ヤマガラ、時にはスズメが入ることもある。背中と頭部の羽模様の特徴から、今回営巣を始めたのは「ヤマガラ」とわかった。



午前中に営巣を始めたヤマガラは、次々と巣草を運び込んでいた。巣草のほとんどは「ミズゴケ」である。このあたりには沢や湿地状の土地も多く、巣草は非常に豊富なのだ。



午前 11 時過ぎ、今日の「巣造り」はここまでのようだ。このままヤマガラが営巣を続けられればいいが、そうとも限らない。あとから入ったシジュウカラと大げんかになって、乗っ取られてしまうこともあるのだ。今後も遠隔操作で観察を続けたい。